

# 魚島村郷土資料 近世史編

## 目次

### 自然編(補充)

一、魚島の気候	1
特色 魚島と海陸風 気温 降水量 風 霧の発生 天候その他 海の天気	
二、潮流と海峡	7
海岸地形 海底地形 魚島周辺の潮流	

### 江戸期の政治と文化

一、今治藩政下の魚島	15
今治藩政の成立	
久松藩政以前 久松定房の入城 今治藩の農村支配	
村方三役の支配	19
近世初頭の魚島 村役人の支配 魚島村の庄屋	
沖嶋村から魚島村へ	23
魚島村の村名 近世村落の形成 地主さん 苗字と屋号	
寛永の検地	26
寛永一三、四年の検地 沖嶋村の記載 魚島村検地帳の内容	
今治・弓削騒動と魚島	31
今治藩の刑罰 今治騒動 弓削騒動	
元禄以降の検地と地坪	34
検地の推移 元禄検地と地坪 魚島村の検地	

新田畑の開発	38				
今治藩の新田開発	魚島の開発	元禄以降の開発			
石高と人口の増加	42				
石高の推移	人口の伸び				
二、村人のくらし	45				
年貢の負担	本年貢	魚島村の年貢	小物成		
45	49				
村の共同生活	魚島の集落	倭約令や犯罪の取締り	宝暦の取締り	五人組制度	
49	51				
災害と飢饉	災害とくらし	三大飢饉と魚島	天明・天保の飢饉	旱魃と雨乞	疫病の流行
51	55				
衣食住とくらし	生活の統制	衣と生活	食生活	住居	
55	60				
三、海運と魚島	60				
海運の発展	64				
64	69				
水軍の伝統と船法定書	水軍書の流行	廻船式目	魚島伝来の船法の巻		
64	69				
船と海運の取締り	海運の統制	海難			
69	72				
魚島港と船舶の進歩	魚島港	船舶の建造	亀居八幡の帆船模型	農船	
72	76				
四、魚島と漁業	76				
76	79				
漁村の成立と歴史	漁業の概観	漁村の成立	漂海漁民の定着	藩の漁村支配	燧灘鯛漁の歩み
76	81				
今治藩の漁業政策	81				

藩主と魚	藩の漁業取締り	漁業政策の転換	沖売りの禁止			
81	86					
漁民の負担と鯛・塩辛の献上	漁民の負担	鯛・塩辛の献上	鯛から鯖漁へ	煎海鼠の上納		
81	86					
漁民と漁船	藩の漁業保護	漁船の管理	漁民の保護	篠塚漁港		
86	89					
網主と歩買連中	亀居八幡の石造物	網主らの頼母子講				
89	93					
漁場と漁具漁法	漁場の支配と保護	魚島近海の漁場	魚島村の漁法			
93	98					
魚島村の鯛漁	鯛漁の種類	鯛網漁	魚島の鯛網統数	魚島の鯛網代	吉田磯	
98	105					
漁場紛争	紛争の発生と解決	他領との争い	明治期の紛争			
105	107					
五、近世文化の諸相	107					
107	110					
村人の教養と文化	教養と娯楽	石造美術				
107	110					
寺子屋と若者宿	心学と丹下環の廻村	寺子屋教育	魚島村の寺子屋	若者組と娘組		
110	113					
近世の道福寺	道福寺の創建	道福寺文書	歴代住職	道福寺の佛像	平成の解体修理	道福寺以外の諸堂
113	121					
道福寺の創建	道福寺の創建	亀居八幡再興記録	末社の統合	関道神社	亀居八幡の奉納物	
121	125					
神社の創建	神仏混淆の形	多様の諸佛神像	道福寺の版木			
125	129					
神仏混淆の形	漁民の信仰	海と漁の信仰	船玉信仰	大玉信仰		
125	129					

六、社会の近代化と郷土

維新期の魚島 ..... 133

維新前夜 廃藩置県 石鉄県政 大区小区制 愛媛県政の発足 ..... 137

徴兵と地租改正事業 ..... 137

四民平等と戸籍法 徴兵制の開始 地租改正の意義 地租改正事業の進展 魚島の地租改正資料 ..... 142

戸長時代の魚島 ..... 142

郡区町村編成法 岩城三浦家の進出 戸長期の魚島 ..... 144

魚島村政の発足 ..... 144

町村制の施行 魚島村の分村独立 魚島村政の開始 ..... 148

魚島村年表

附録 史料 (一) 鯛網網代番附

〃 (二) 沖嶋村検地野帳(寛永十三年)

あとがき

魚島の気候

特色 魚島は瀬戸内海の中央に位置するた

め、典型的な瀬戸内海型の気候である。瀬戸内海は北に中国山地、南に四国山地があり、東西にも近畿・九州の山並に囲まれた全くの内陸である。そのため夏冬の季節風、春秋の温帯性低気圧の風に対して常に風下になるため、雨量が少ない。したがって、日照時間が長く晴天の多い事が、製塩業や果樹栽培を発達させたが、雨が梅雨期に集中するので、夏季には水不足となる事が多く、旱害を受ける年も多かった。

内陸型の気候では寒暖の差が激しいのが普通であるが、魚島のような小島では海水の気温の緩和作用をうけて夏の到来は遅くて涼しい。冬も遅くて温暖という住みやすい気候となっている。海水の温度の上昇は陸よりも二か月遅れ、冷却もまた同様であるからである。

魚島と海陸風 瀬戸内海沿岸や大島・大三島などの大きい島では、夏に海陸風が吹くことがよく知られている。昼間は海よりも陸上が高湿となるため、海から海岸線に直角に海風が吹き、

夜間はその逆風となる。風の交替する夕風は、人々は庭に打水をして縁側で涼をとるが、魚島でも時に涼しい陸風や夕立をみることもある。

伯方・魚島の風は中国山地側の勢力下にあるような吹き方をする。魚島では、午前中は北寄りの風が吹き、日中は南寄りの海風が吹き、夜間は西風に変化する。

瀬戸内海地方は中国山地と四国山地に囲まれているため、風は弱い。しかしそのためこの海陸風の日常生活や海上活動への影響は大である。四坂島の煙害の拡大や近年の産業活動による大気汚染、また、松枯れ病等についても関係が大きいとおもわれる。

気温 観測年数が少ないため断定はしにくいが、魚島の月平均気温は一月が最低で約五度、最高は八月で二十六・五度、その較差は約二十二度である。年平均気温は十五・五度で、松山の十五・六度と同じ、大三島の十五・一度(一九七九～一九八九の平均)より暖かく、伯方町の一六・〇度(一九五六～一九七五平均)より低い。しかし気温は観測地点でかなり異なるので、同じ条件で比較する必要がある。春は気温の上昇が遅く、桜の開花も今治・松山よりは数日遅れる。夏は陸地部に対して数度低温で、しのぎやすく秋もまた遅い。

これらは全て海洋の影響によるが、松山との最高最低気温の比較図に最も明瞭である。最高気温は常に松山より低く、特に夏でも三五度を超えない。冬は常に松山より高く、したがって最高最低の差は一〇度以内で、松山の半分以下である。昭和五年のみの資料であるが、一月は魚島は松山より二度暖かく、七月・八月は一度余り低い。魚島近海の水温の変化をみると、その上昇下降は緩やかであり、冬でも一〇度以上、夏は二八度以上である。

降水量 瀬戸内海の中央部は、小豆島を中心として雨量が少なく二〇〇ミリ以下で、西日本では最少量である。魚島の四年間の平均では一一〇〇ミリである。降水量は気温よりも年変化が大きく、四坂島では最高一八五九ミリから最低六三四ミリ迄の間を大きく変動する。二二〇〇ミリ以上を記録した年は一三回、九〇〇ミリ未満は七回である。その年次変化には規則性がみられ、一五〇〇ミリ以上の多雨年は約二〇年に一回みられ、その前後の年は寡雨年である。

大三島の瀬戸崎二八年間の記録では、最高一四八六ミリ最低七八八ミリで、一〇〇〇ミリ以下は八回と変化はやや少ない。今治市五三年間